

スクレイピングによる偽サイト対策にも



BotによるWebサイトがらみの攻撃は他にもあります。その代表的なものは、Webサイトのコンテンツを入手するスクレイピングです。スクレイピングにより、フィッシング詐欺を目的とした偽サイト作りや、企業の貴重なオリジナルコンテンツの入手・転載などが行われ、オリジナルサイトの価値低下につながります。

スクレイピング対策が難しい理由の一つとして、スクレイピングを行うクローラーが検索エンジンのクローラーに偽装してアクセスしてくることが挙げられます。SEO*7の観点から、検索エンジンのクローラーを遮断することはできないため、対策が打ちにくくなっています。

これに対し、PerimeterX Bot Defenderはホワイトリストで検索エンジンなどの有益なクローラーを識別し、必要なクローラーはアクセスでき、悪質なBotは排除されます。

日立ソリューションズでは、国内初の販売代理店としてPerimeterX Bot Defenderの提供を開始しました。PerimeterX Bot Defender以外にも、国内外のさまざまなWeb・セキュリティソリューションを提供することで、お客様の事業をトータルで支援しています。

*7 Search Engine Optimization

Webサイトの運営において課題を抱えている方はぜひ、日立ソリューションズにご相談ください。

perimeter

ECサイトにおける、こんな問題。

- アクセス数は増えているのにコンバージョン率が低下
- ターゲット顧客がいないはずの国からアクセス
- キャンペーンを実施していないのに会員登録数が急増
- 独自販売の商品なのに他のサイトでも販売
- ログインページでの認証エラーが頻発

Botによる攻撃の可能性が大です。

Botを使った攻撃は、従来のDDoS攻撃やスパム送信だけでなく、不正ログインやECサイトでの商品の買い占めといった、より高度なものへと進化しています。

アクセス者のふるまいをもとに、AI技術で人とBotを識別するBot対策製品
PerimeterX Bot Defender
ペリメーターエックス

ECサイトと利用者の安全性・利便性を、高いレベルで両立します。

www.hitachi-solutions.co.jp/perimeterx/

※PerimeterX、PerimeterX Bot DefenderはPerimeterX, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。※その他、本カタログ中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本カタログ中の情報は、カタログ作成時点のものです。

株式会社 日立ソリューションズ

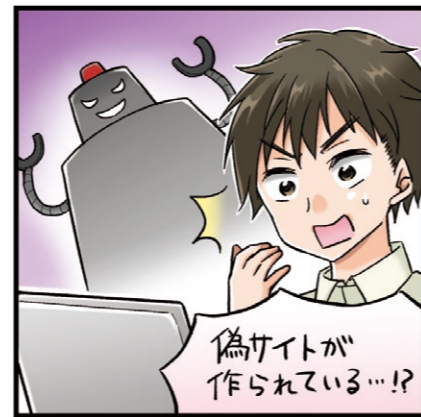
www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/column/shion/vol13/

C20K-01-01 2020.04



IT探偵 しおんが解決!

企業潜入調査物語

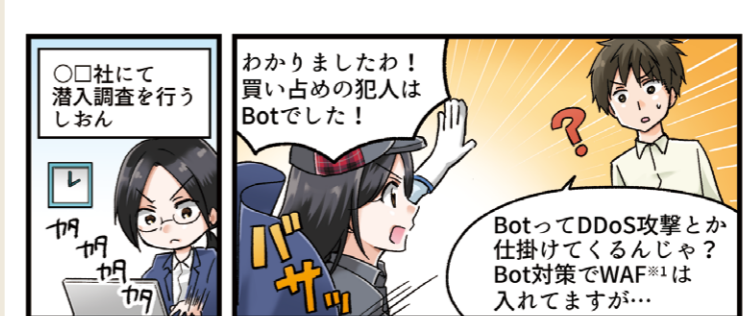
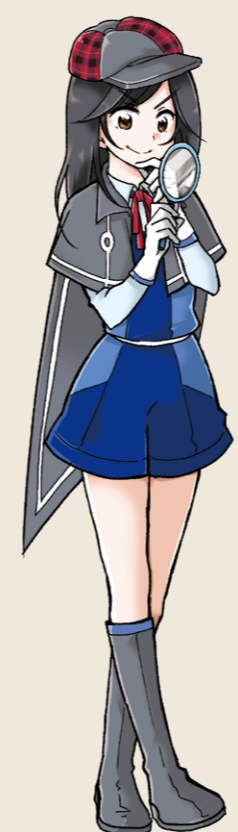
高精度なAI識別で多様化するBot攻撃からECサイトを守れ!

プロローグ

都内某所に、ITを駆使して企業の悩みを解決するという、特別な探偵事務所がある。そこで働くエリートIT探偵の「伊野部しおん」は、企業が悩むセキュリティや業務効率化の課題を次々と調査・解決していく。

伊野部 しおん

IT探偵事務所に勤めるエリート探偵。3年前までは某企業のスーパーエンジニアだったらしい。依頼先の関係者に変装をしてITの課題を探し出して解決していく変装調査型の仕事を得意とする。



登場人物

きんじた 金下 ススム

若手ながら○○社のEC担当に抜擢され、力を入れてサイト運営をしている。買い占めの被害を受けたのは初めてで困っていたところ、情報システム部の同僚からIT探偵事務所を紹介される。

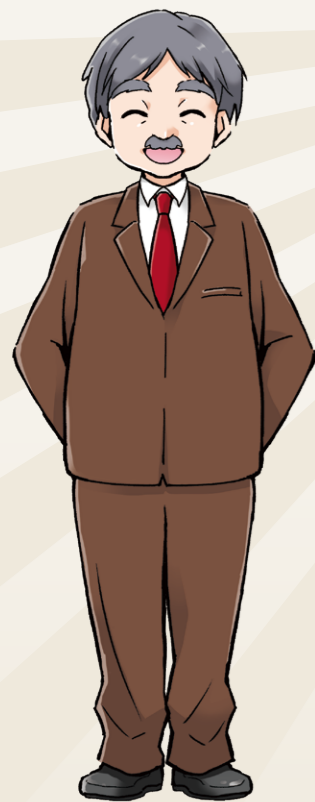
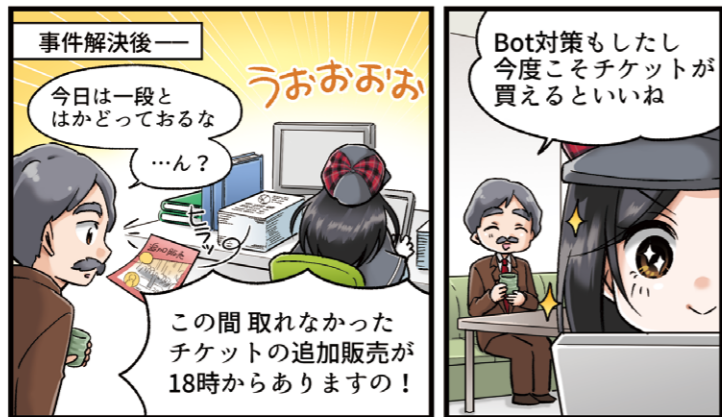
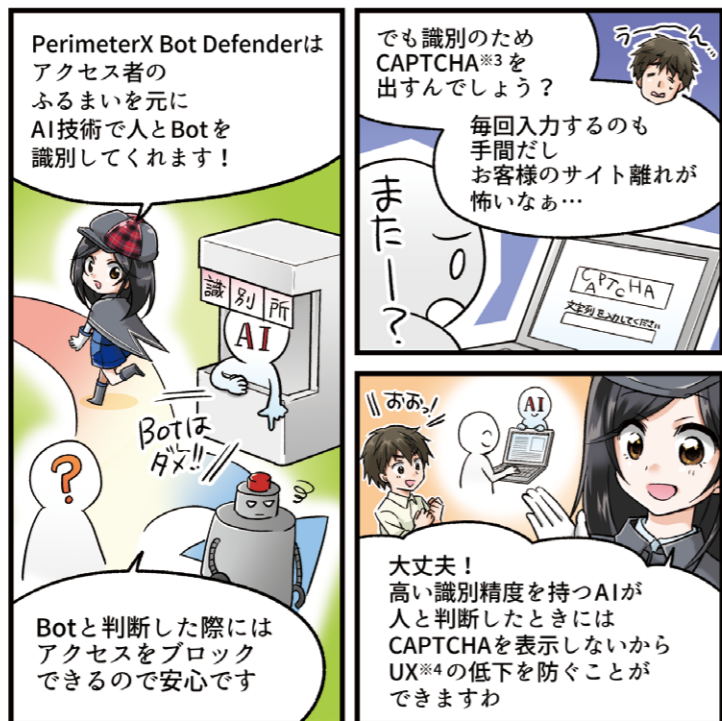


そりゅう よしお 曾柳 好男

IT探偵事務所社長兼取締役を務める社長。さまざまな企業に監査などの内部調査を依頼され、しおんを送り込んで企業課題を解決させている。



*1 Web Application Firewall *2 コンテンツ自動収集



IT探偵しおんが解決!

プログラムによってインターネットアクセスを行うBot。インターネット上のBotによるトラフィックは約40%^{*1}を占め、その半数以上は悪意のあるBotとみられています。特に近年ではECサイトや会員サイトなどを狙って、ビジネスを妨害するBotが増えています。これらのBotは脆弱性を悪用したものではなく、見かけ上、特に問題ないアクセスに見えるため、従来のセキュリティ対策だけでは限界があります。日立ソリューションズでは、この悪質なBot対策のソリューションとして、「PerimeterX Bot Defender (ペリメーターエクス ボットディフェンダー)」の提供を開始、Webサイトの安全な運用と管理を支援します。

*1 Bad Bot Report 2019

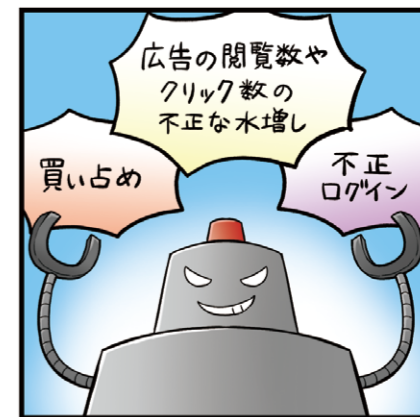
変化してきたBotによるサイバー攻撃



検索エンジンがサイト検索情報を収集する「クローラー」や、さまざまな情報を収集する「ロボット」など、インターネット上ではBotが多数使われており、今ではインターネット上のトラフィックの約40%を占めているといわれています。

Botはプログラムで簡単に作ることができるため、悪意のあるアクセスにも多く使われており、Botトラフィックの過半数は悪意あるBotによるものとみられています。

従来、悪意あるBotはDDoS (分散型DoS) 攻撃や、スパムメールなどの配信に使われてきましたが、近頃では、転売などを目的としたECサイトにおけるレア商品・キャンペーン商品・チケットの買い占め、広告の閲覧数・クリック数の不正な水増し、盗まれたユーザー情報を使った不正ログインなどに使われることが増えてきています。これらの攻撃はWebを使ったビジネスに大きな影響を及ぼすものであり、何らかの対策が必要となっています。



難しいWebサイトのBot対策



このようなWebサイトに対するBot対策の難しさは、Botが正しい方法でWebサイトにアクセスしてくる点にあります。つまりWAF^{*2}などでは検知することが難しく、Webサイト側で、人によるアクセスなのか、Botによるアクセスなのかの判別が付きません。

そこで、Bot対策としてよく使われているのがCAPTCHA^{*3}による識別です。ご存じの方も多いと思いますが、CAPTCHAはユーザーに画面表示した文字などを入力させることでBotを排除します。しかし、毎回ユーザーに余分な入力を強いることは、UX^{*4}の低下につながる恐れがあります。さらに、近頃はCAPTCHAをクリアするBotもあり、CAPTCHAによる認証だけではUXの低下を招くだけでなく、Bot対策として十分ではない可能性も考えられます。

*2 Web Application Firewall
*3 Completely Automated Public Turing test to tell Computers and Humans Apart
*4 User Experience



AIが高い精度で悪質なBotを排除し、UXの低下を防止



このような課題に対してAI技術を使い、人とBotを識別するのが、米国PerimeterX, Incのクラウドサービス「PerimeterX Bot Defender」です。PerimeterX Bot DefenderはAIがアクセス方法や利用端末の情報などを多角的に分析、そのアクセスが人によるものなのか、Botによるものなのかを高い精度で判定します。

すでに米国を中心とした150社以上^{*5}が導入し、とある会社ではBotによるアクセスを99%以上^{*6}遮断できたという実績も残っています。PerimeterX Bot Defenderはクラウド型で提供されているため、世界中のサイトに対する人によるアクセス、Botによるアクセスを常にAIが学習し、その精度を日々向上させています。

精度の高いBot判定により、アクセスが人と判断した場合は、本来のページを表示するため、サイトのUXを損ないません。また、アクセスがBotによるものと疑われる場合はCAPTCHAを表示しますが、CAPTCHAをクリアしようとするふるまいからも、Botかどうかを識別し防御するため、有効なBot対策が可能となります。

*5 PerimeterX, Inc Datasheets「PerimeterX Overview」
*6 PerimeterX, Inc Case Studies「Shiekh Shoes」

